

## 〈解答〉

- ① 1 イ  
2 ①：足利尊氏 ②：吉野  
3 エ  
4 足利義政  
5 参勤交代  
6 国名：オランダ 名称：出島  
7 ウ  
8 イ→ア→ウ (完答)

配点 各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 承久の乱は、朝廷の勢力を取り戻そうとして、後鳥羽上皇がおこした戦いである。後鳥羽上皇は執権北条義時を討つ命令を全国に出したが、東国の武士の大部分が北条氏についたため、幕府側の勝利に終わった。この乱のあと、幕府は京都に六波羅探題を置いて朝廷を監視し、幕府の支配力を東国だけでなく、西国に広げた。後白河上皇は、天皇だった1156年に、兄の崇徳上皇と対立して、保元の乱がはじまった。1158年に上皇になり、34年間にわたって院政を行った。京都所司代は江戸幕府の役職で、朝廷と西日本の大名の監視にあたった。
- 2 朝廷が、吉野（奈良県）の南朝と、京都の北朝に分かれ対立した1336～1392年の期間を南北朝時代という。この二つの朝廷は全国の武士に呼びかけて戦いを続けた。
- 3 勘合貿易は、3代将軍足利義満が明と始めた貿易である。能は足利義満の保護を受けた観阿弥と世阿弥によって大成された。足利義満のころの文化は、義満が京都の北山に建てた金閣に代表されるので北山文化という。アは鎌倉文化、イは桃山文化、ウは元禄文化である。
- 4 15世紀半ば、有力な守護大名が、8代将軍足利義政のあとつぎ問題をめぐって争いを始めた。これに細川氏と山名氏の勢力争いが複雑に結びつき、1467年、多くの守護大名をまきこんだ応仁の乱が始まった。この乱は、京都を中心に全国に広がり、

11年間にわたって戦われた。この中で、下の身分の者が上の身分の者を実力でたおして、権力をにぎる下剋上の風潮が全国に広がっていった。

5 参勤交代は、幕府が大名統制のためにとった制度で、大名は1年おきに領地と江戸に住み、その妻子を人質として江戸の屋敷に置くことを義務づけられた。3代将軍徳川家光の武家諸法度で制度化された。

6 幕府は、1639年にポルトガル船の来航を禁止し、1641年には、平戸のオランダ商館を長崎の出島に移した。こうして、中国船とオランダ船だけが、長崎で貿易を許されることになった。この幕府による禁教、貿易統制、外交独占の体制を鎖国と呼ぶ。

7 8代将軍徳川吉宗は、幕府の財政状態を改善するため、儉約によって支出を減らす一方で、新田の開発を奨励したり、年貢の取り方を改めるなど、収入の増加を図った。また、公事方御定書をつくって訴訟の手続きや刑罰の基準をはっきりさせたり、目安箱を置いて庶民の投書を直接受けつけたりした。ウは水野忠邦の天保の改革である。

8 イは1858年、アは1859年、ウは1860年である。日米修好通商条約を結んだ幕府の政策に反対する尊王攘夷運動が盛んになると、井伊直弼は、幕府に反対した大名や公家など多くの人々を処罰し、吉田松陰らを処刑した（安政の大獄）。これに反発した水戸藩の元藩士は、井伊直弼を江戸城の桜田門外で暗殺した（桜田門外の変）。